

サンガ小倉

2017年
夏号

平成29年
6月発行

カラスと『歎異抄』

愛犬のチワワがやって来て

からここ数年、お晨朝後、雨の日以外は、朝七時頃に町内を十分程掛けて一周する散歩が日課になっています。五月は特に空も晴れ渡り、適温で、朝から清々しい気持ちにさせて頂きます。そんな中、一本北側の筋にゴミが散乱してしました。業務用の袋が破られ、「おしぼり」や残飯、食品パック等が散らばっています。カラスの仕業です。一羽が地面に降り、こちら



古法寺住職 長岡 厚

(小倉北区鍛冶町)



を見ています。立派な黒い嘴、黒光りした羽毛、意外と愛らしく艶々した眼をしています。「カラスは英語でCROW(クロウ)・・・、カラスも苦勞している」等と朝の清々しい気候のせいか、優しい気持ちになり、そんな自分が誇らしく嬉しくなりました。その場を後にし、

爽やかな気持ちと足取りで境内地に戻ってききましたら、前方に白い物体がありました。さつき散乱していた「おしぼり」が落ちていました。上を見ると、本堂の屋根に汚れた紙や食品パックの残骸がのっていました。カラスの仕業です！道は筋違いですが、空は繋がっているのですね。「こっちに捨てるな！」怒りの炎が

一気に燃え上がり、顔面も、多分、頭皮も赤くなり頭髪が逆立つくらい腹が立ちました。正に赤鬼の様相です。先程の優しい気持ちの私から、僅か五分しか経っていません。本堂の前で、一息ついて「自分の姿」や一連の出来事を考えてみました。

「さるべき業縁のもよおさば、いかなる振る舞いをもすべし」(『歎異抄』)

そんな私の事を知ってか知らずか、あの鳴き声を放ちカラスは上空に消えていききました。

その晩、坊守に頼んで大好きな焼き鳥パックを買ってきてもらい、以前頂戴した芋焼酎と一緒に美味しく頂きました。もちろん、今朝の出来事など忘れ去っていたことは言うまでもありません。

「(それほどの業)をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ」(『歎異抄』)

